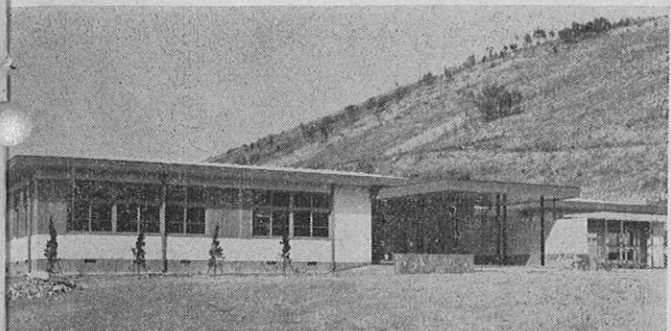
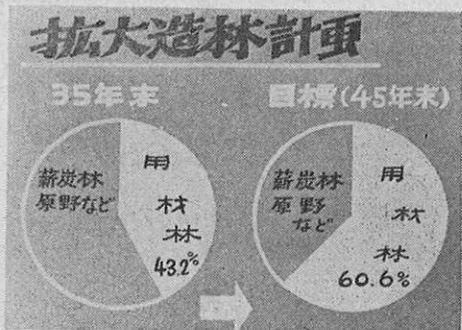




吉村 次の場面は何ですか。
林業公社の標柱の場面（左上の写真）
 杉本 これは五家荘にある林業公社の造林地です。
 吉村 林業公社というのは、全国でも珍しいんじゃないですか。
 杉本 そうです。熊本が最初です。県としましては、特に奥地林業の開発をはかるといふ目的で、五家荘を中心として、地元の町村、森林組合などとタイアップしまして、知事が理事長となつて力を入れていくわけです。
 吉村 ところで、次のこの画面は何をしているところですか。



ブツシユ・カッターの場面（右上の写真）
 杉本 これはブツシユ・カッターという下刈り機です。
 吉村 下刈りも機械ですものですね。消毒しているんじゃないですか。（笑）
 杉本 昔は下刈りはみんなカマでやっていましたが、これで刈りますと、三人分から四人分の仕事ができるものです。県内におよそ百二十台位あります。
 吉村 なかなか便利な機械ができましたね。
 それから、この建物
 は……
林業指導研究所の場面（左中の写真）
 杉本 これは立田山のふもとにある県の林業指導研究所です。ここでは土壌の調査、林業全般の研究ということを中心として、指導をやつていくというわけです。



経営面積をひろげよう
 吉村 ところで、熊本の場合、私有林が非常に多いということですが、山の所有状況はどうなつていますか。
 杉本 本県の場合、山を持つている方が十三万人おられますが、一畝以下の方がこの六五%も占めています。ですから、

林業を農業の中に含めた経営を行なうということにしますと、どうしても一畝歩以下の人々の所有を、少くとも五畝から十畝位までふやしていただく……
 吉村 はあ、なる程。採算がとれるためには一畝位ではだめだというわけですね。
 杉本 え、だめなんです。ですから、それについては、幸い国の方で資金を一戸当り五十万円出す……ということが昨年まきましたので、本県としましても、それを極力推進しまして、安定した林業経営の確立をはかつていくと、努力をしているわけです。
 吉村 林業というのは、あまり一般の人々にはクローズ・アツプされない産業なんですが、県としては非常に大事な産業だと思っております。

(文責・広報課)

■世はまさにクスリのはん乱…そのクスリも、使

薬のコマーシャル・ソング

先日のこと、私の家の前を、
 数人の小学生が、楽しそうに歌
 いながら通つていきました。

——ほほえましい光景。
 ところがナント、その歌はラ
 ジオかテレビで覚えたらしい、
 薬品会社のコマーシャル・ソ
 グでした。

このように、いまやマスコミ
 に薬の広告宣伝が顔を出さない
 日はありません。
 それだけ薬というものが、私
 達の生活の中にはいり込み、ま
 た、生活から切りはなすことが
 できないものとなつてきているわけ
 です。

病気になる時に使う薬はも
 ちろん、今では、病気がかか
 らないように使う薬も多くなつて
 きました。

自己診断では
 なぜあぶないか？

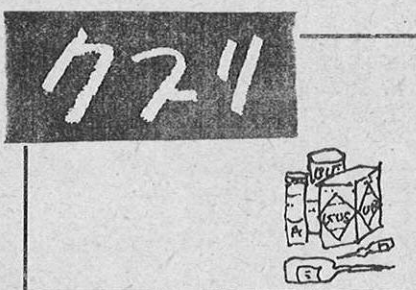
薬はその道の専門家である薬
 剤師や医師が取扱うのがたてま
 えです。然し、専門家でさえ復
 雑で使い方も難かしいのですか

ら、素人が、不十分な知識で薬
 を使うのは、ひかえなければな
 らないわけです。
 これが原則なのですが、今は
 家庭で薬を使うことは事実で
 す。

然し、そうした家庭で素人が
 使う薬には「限
 界」がありま
 す。保健薬、か
 ぜ薬、キズ薬な
 どが、家庭での
 薬として使われ
 ています。こ
 れらにしても、
 正しい知識をも
 つて利用した
 ものです。

まず、病気に
 合った使い方が
 大切です。医師
 に診察してもらつて、その病気が
 どのような病気であるかはその
 して、それに適当な薬が用いら
 れる……ということになるのが
 本すじです。

家庭療法では、風邪をひい
 た、胃のぐあいが悪いというよ
 うに、自分の体の変調やいたみ
 に対して薬を用います。



ですが、合わないことも多いの
 です。病気が軽い時はそれで用
 心すればなおるでしょうが、
 もし大きな病気に進行する始ま
 りだとすれば大変です。
 体がだるいので、ビタミン剤
 をのんでいたが一向によくなら
 ない。そこで
 精密検査をし
 たら糖尿病だ
 ったという例
 もあります。

こんなこと
 もあります。か
 ら、自己診断
 ではうまくい
 かない場合も
 少なくありま
 せん。

もし家庭で
 薬を使用する
 場合は、薬のほ
 たらき、用い
 方、量などを
 書いた効能書が
 薬には必ずつ
 いています。そ
 の効能書きをよ
 く読んで使わね
 ばなりません。
 倍量のめば半
 分の時間でお
 けるというも
 のではありません。
 薬の乱用もい
 けません。その
 代表的なものが
 麻薬や睡眠剤の

いわれる
 自己診断で
 すからうま
 く薬が合う
 こともあり
 ますが、合
 わないことも
 多いのです。
 病気が軽い
 時はそれで用
 心すればなお
 るでしょうが、
 もし大きな病
 気に進行する
 始まりだとす
 れば大変です。
 体がだるい
 ので、ビタミン
 剤をのんでいた
 が一向によく
 ならない。そ
 で、精密検査
 をしたら糖尿
 病だったとい
 う例もありま
 せん。

中毒ですが、そこま
 でいかな
 いものにも、乱用
 すれば害がある
 ものが多くあり
 ます。
 化学療法剤とい
 われるスル
 ファミン剤、ベ
 ニンリン等の
 抗生物質等は
 医師の指示で
 正しく用い
 なければなら
 ません。
 特にホルモン剤
 は、素人が勝
 手に使うべき
 ものではありません。
 体でのホルモ
 ンの働きは微
 妙で、それを
 乱すような結
 果を招きます
 ので警戒が必
 要です。
 種々のホルモ
 ン剤のうち、
 ホルモン剤は
 強精剤として、
 副腎皮質ホル
 モンはリウマ
 チ、神経痛、
 ぜんそく等に
 最も素人使用
 いされている
 ようです。こ
 れらのホルモ
 ン剤の使用は
 特に慎重に
 したものです。

酒のみが強肝
 剤をのむとき
 宴会にでか
 ける前に、強
 肝剤をやたら
 にのんでいく
 人をみかけま
 す。今夜は大
 いに飲んでや
 ろうという人
 や、酒を飲ま
 されるので、
 酒の害を防ぐ
 ためと思つて
 のんでいる人
 もあるでしょ
 うが、これは
 いづれもおか
 しい薬の使い
 方です。

肝臓を守るためには、酒の飲
 み方に注意すべきで、薬にたよ
 るべきものではないと思いま
 す。
**家庭に備えておき
 たい薬のイロイロ**
 病気になるつたら、医師の診断
 によつて、適した薬をのむのが
 原則ですが、次のようなものが
 あれば便利でしょう。

- の み 薬 胃腸の薬、下痢止め、下剤、内服用殺菌剤、流腸薬、熱さまし、かぜ薬など。
- 外 用 薬 やけどの薬、消毒薬、汗しらず、水虫の薬、化膿止め、アソノア水、吸い出し、肉をもりあげる薬、目薬など。
- 衛生材料 脱脂綿、ガーゼ、ホータイ、体温計、流腸器、かいろ、湯たんば、水枕、水のう、ピンセット、はさみ、綿棒など。

そのほか、虫が耳に入った時
 には小型懐中電灯で照せれば出
 てきますので、これは便利だ
 から、備えておけばよいでし
 ょう。
 (衛生部)